

第4回（平成19年度）IODP部会・執行部会 議事録（案）

日時：2007年7月11日（水） PM14：30～17：30

場所：JAMSTEC 東京事務所 セミナー室 A・B

出席者（敬称略）

執行部：川幡穂高（東京大学）阿波根直一（北海道大学）荒井晃作（産業技術総合研究所）
安間 了（筑波大学）池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）
井上麻夕里（東京大学海洋研究所）小平秀一（海洋研究開発機構）坂本竜彦（海洋研究開発機構）
高澤栄一（新潟大学）日野亮太（東北大学）松本 剛（琉球大学）山田泰広（京都大学）
山崎俊嗣（産業技術総合研究所）山本啓之（海洋研究開発機構）

オブザーバー：

文部科学省海洋地球課 : 宿利一弥 戸谷洋子
海洋研究開発機構 国際課 : 笹山岳大
海洋研究開発機構 CDEX : 川村善久 木戸ゆかり

事務局 : 山田 泰 加賀谷一茶 梅津慶太

欠席者（敬称略）

執行部：北村晃寿（静岡大学）

議事次第

1. J-DESC コアスクール [川幡部会長・坂本委員]
 - ・ICDP Training Course
 - ・Core School 予算について
2. 科学推進専門部会について [荒井委員・山崎委員・川幡部会長]
3. H19 年度上半期_会員提案型活動経費募集結果について [事務局]
4. 2007 KJOD Workshop について [川幡部会長・事務局]
5. 地下構造研究の進め方について [小平委員]
6. MRC 活動支援について [川幡部会長・事務局]
7. 機関への Thank you letter について [川幡部会長・木戸オブザーバー]
8. その他
 - ・各国際委員会、各部会の報告・審議事項[各委員・担当者]
 - (1) SSEP co-chair 候補について
 - (2) その他
 - ・MEXT 報告
 - ・その他報告事項
 - ・次回開催日程

配布資料

資料 1-1	ICDP Training Course の紹介	参考資料 1 J-DESC Core School 予算について
資料 1-2	科学推進専門部会について	
資料 1-3	会員提案型_H19FY 上半期募集結果一覧	
資料 1-4	2007 KJOD Workshop について	
資料 1-5 (1)	地下構造研究の進め方（案）	
資料 1-5 (2)	地下構造研究への J-DESC の対応（案）	
資料 1-6 (1)	MRC Report	

本委員会資料の通し番号（暫定案）

※[IS07***]が通し番号になります。（IS=j-sikkou, 07=年度, ***=番号が入ります。）

資料 1-1	[IS07062]	ICDP Training Course の紹介
資料 1-2	[IS07051_2]	科学推進専門部会について 会員提案型活動経費_H19FY 上半期募集結果一覧
資料 1-3	[IS07063]	2007 KJOD Workshop について
資料 1-4	[IS07064]	地下構造研究の進め方（案） 地下構造研究への J-DESC の対応（案）
資料 1-5（1）	[IS07065]	MRC Report
資料 1-5（2）	[IS07066]	MRC 活動支援について
資料 1-6（1）	[IS07067]	Thank you letter について
資料 1-6（2）	[IS07068]	IODP Day 講演資料
資料 1-7	[IS07050_2]	J-DESC Core School 予算について
資料 1-8	[IS07069]	

平成19年度第4回 IODP 部会・執行部会議事録（案）

1. J-DESC コアスクール（川幡部会長・坂本委員）

- ・ ICDP Training Course
- ・ Core School 予算について

資料 1-1、参考資料 1 に基づき、川幡部会長、事務局より標記の件について説明がなされた。

- 非破壊計測コースは参加者 6 名。そのうち 3 名の会員機関からの参加者に、参加旅費支援を行った。
- 非破壊計測コースの消耗品 1 万円は未使用。
- 今後は院生のバイトを雇うことで準備などの負担を軽減していくことを検討。そのためには会員増などで資金を増やすことが必要。
- ICDP トレーニングコースの紹介について資料 1-1 を J-DESC HP に掲載することが承認された。
- 参考資料 1 の各スクール名称について要訂正。
- 開催予算でオーバーした分は執行部会委員旅費の残額で補填することが承認された。

2. 科学推進専門部会について

資料 1-2 に基づき、川幡部会長、荒井委員より標記の件について説明がなされた。

（承認事項）

- 科学推進部会の主な役割の一つである「プロポーザルの育成」を動かすために、現在行っている乗船研究者のランキング作業を改善し負荷を軽減する。
- その方法として、各 Exp. に Watchdog を 3 人程度付け、Co-Chief と連携して乗船者のランキングを行い、オーソライズは公平性を期するため専門部会全体で行う。
- 委員の任期が終わるが、Watchdog はまだ続くという場合は特任という形で Watchdog を最後までやってもらう（専門部会に出る必要はない）。他の人とバトンタッチする場合はそれでも良い。
- 日本人が Proponent になっている場合は、Co-Chief を決めることから戦略的に進める。

（ランキングの付け方）

- ランキングの付け方は ABC でカテゴライズする方式で行う。
- ABC それぞれのランクが持つ意味と割り当てる人数を長期的な戦略を反映するものとして明確にする。
- ランキング A には後継者育成のためポストドククラスの若手を入れる。
- ABC ランキングを決定する要素として戦略、航海の趣旨、業績（実績）、若手の育成、人数が考えられる。

（今後の予定）

- 今週中に荒井委員がまとめ、来週初めに執行部会でオーソライズ。その後科学推進専門部会に交渉。
- 最終的には科学推進専門部会で決めることなので、荒井委員が科学推進専門部会の各分科会長（3 人）と話し合う。執行部会である程度具体的に決めて方向性を持たせる。
- 現在乗船者募集中（8/31 締め切り）の Bering Sea Shallow Shelf のランキングから適用することを目指す。

安間：荒井委員の提案に賛成。Watchdog の役割をする人について、SSEP を兼任している人はプロポーザルの育成に集中すべき。

阿波根：全ての航海の 1/3 は Co-Chief を出さないといけないため、雇われ Co-Chief として乗船するケースがある。その場合、Co-Chief が決まるタイミングはランキングの前とは限らず、ランキングの時点で Co-Chief が関われないことがある。そのため、順位付けまではする必要はなく、ABC

でのランク付けが良い。Watchdog については賛成。

坂本：荒井委員の提案に賛成。Watchdog は成果が出るところまで見るべきである。Co-Chief が日本から出ない場合も Co-Chief 格の人を出して面倒を見てもらう。専門分野や Co-Chief を知っているなどを基準に Watchdog を選ぶのが良い。

山本：ABC でのランキングは賛成。ABC の基準をどうするかを決めなければならない。

小平：Watchdog については賛成。Co-Chief が後から決まるケースについては、Watchdog の権限で決めるのが良い。ABC ランキングについては、数の目安を決めたほうが良いと思う。数の目安がないと後で選ぶ指標として使いづらいものになってしまう。

高澤：荒井委員の提案に賛成。少人数で決めたほうが早く決まるため良い。ABC ランキングについてはランクの意味づけが必要である。

松本：荒井委員の提案に賛成。ABC ランキングについて、日本独自の基準として文章化したガイドラインを作る必要がある。体制については Watchdog 方式でよいと思う。

山崎：Co-Chief が日本から出ない場合や、遅れて選出される場合にどうするかも決めなければならない。ABC については、A は航海のコアメンバーになる（多くても 4 人）。A を少なく、B を多くし、B から若手を選出してもらう。

池原：荒井委員の提案に賛成。専門部会全員が納得してもらえるような取り決めをすることが必要。

山田：決めるのは IO と Co-Chief であるため、ランキングは目安にしかならないのでは？もしもランキングが目安にしかならないのであれば、A ランクは比較的多くても良いと思う。上位にランクされることは悪く思うことではないので。

日野：Watchdog をつけるのは賛成。上位ランクをつくるのも重要だが、下位ランクについてもどうするかを決めるべきだと思う。

井上：Watchdog の決め方をどのようにするか決めることが必要。分科会からバランスよく選出するなど。

3. H19 年度上半期 会員提案型活動経費募集結果について

資料 1-3 に基づいて、山崎委員より標記の件について説明がなされた。

- 申請のあった 3 件のうち 2 件が、これまで提案が無かった申請者本人がワークショップに参加するための旅費の提案であったが、この経費の目的として想定していないものであること及び、これを認めると、今後このような提案が多く出されることが予想されることから、厳しく審査を行った。
- 3 件のうち採択する予定は IGCP-476Final Symposium（代表 多田隆治）。

4. 2007 KJOD Workshop について

資料 1-4 に基づき、川幡部会長より標記の件について説明がなされた。

- 昨年は J-DESC 会員提案型活動経費より韓国からの参加者 1 名分の旅費と会場での雑費を支出。
- 韓国が IODP に参加しているという（国内外での）プレゼンスを示すには良い機会である。
- 高澤委員が本ワークショップ担当となり、東大海洋研の朴氏と協力してコーディネートする（テーマ、人数、参加者）ことが決定された。

5. 地下構造研究の進め方について

資料 1-5 (1)、(2) に基づき、小平委員より標記の件について説明がなされた。

- (1) IFREE では、掘削研究推進の一環である site survey を、掘削科学を広域・深部プロセスと統合する包括的研究として実施していく。そのための航海計画の優先順位付けおよび航海計画の承認

を J-DESC として行う。

- (2) 測線提案型公募の対象海域を拡大し、JAMSTEC に必要な地震探査データの取得支援を行う。これについては、調査および必要日数の決定を J-DESC で行う。
- 本件に関しては事前調査部会の支援のもと科学推進専門部会が中心に進めていくことが合意された。
- コメントがあればメールを小平委員に送る。

6. MRC 活動支援について

資料 1-6 (1)、(2) に基づき、川幡部会長、阿波根部会長補佐より説明がなされた。

- MRC は ODP 時代に年代決定を行うための微化石のリファレンスセンターとして重要であった。
- IODP においてもその重要性は変わらないものの、現状では MRC の位置づけが不明確になっており、今後位置づけを明確にするべく STP やその下に設置された PCG で検討されると考えられる。会合の重要性や国内コミュニティへのメリットの還元を鑑み、今回は同期間に開催される PCG へのオブザーバー参加を併せ、JAMSTEC から AESTO への委託業務の一環として支援を検討する。
- PCG をバックアップするための MRC は重要であるとの位置づけは可能であるため、例外としてではなく、PCG の一環として支援を検討する。
- JAMSTEC と AESTO で予算を見ながら検討を行う。

7. 機関への Thank you letter について

- 特に進展は無い。今後大学などの状況について調査を進めていく。

8. その他

各国際委員会、各部会の報告・審議事項

(1) SSEP Co-Chair 候補について

山崎委員より標記の件について説明がなされた。

- 専門が古海洋分野以外という条件で、SSEP 経験者、IODP の Co-chief Scientist 経験者からリストアップを行っている。それ以外でも適任と思われる候補者があれば山崎委員まで知らせる。

(2) その他

MEXT 報告

宿利企画官よりブレイマーハーフェンでの IODP Day (IODP Council meeting、SASEC、IODP メンバー会議、BoG 会議、NSF-MEXT 会議) についての報告がなされた。

- インドが IODP に参加する覚書の原案が LA に届いたが、原案にはまだ問題が多く、引続き LA-インド間で調整が必要。
- SASEC は来年 1 月上～中旬にサンタクルズで開催、その次が 6 月または 7 月に中国で行う予定。
- JAMSTEC と和歌山県が中心で「ちきゅう」の IODP 開始セレモニーを行う。IODP の行事というより「ちきゅう」の初の研究航海開始の記念と、地元の歓迎式としての意味が大きい。

その他報告事項

- 会員の口数について、これまでの経緯を調べた上で IODP 部会としての意向を小泉委員会と陸上掘削部会に提案を行う。
- Exp. 309, 312 成果報告会を地質学会の夜間小集会として開催予定 (高澤委員)。

- 7月26日 IIS-PPG のワークショップを JAMSTEC 東京事務所で開催予定(山田委員)。
- New Jersey の航海が今年度は中止になった(阿波根部会長補佐)。
- J-DESC コアスクールとして参加者への支援を行った(非破壊計測コース)。
- 国内に住んでいる日本人乗船研究者に関して、ちきゅうの乗船者に義務づけられている HUET の受講に係る旅費については、JAMSTEC から AESTO への委託業務として行っている乗船研究支援の一環として支援を行う。
- この件に関しては、メール会議および JAMSTEC と AESTO で検討する。
- 林氏の HUET 旅費支援については早急に対処する。

次回開催日程

9月に開催